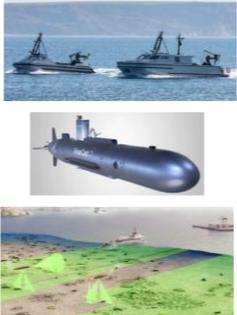


整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -61	2023/3/23	PEO Ships and NSWC Philadelphia Mark Major Milestone with the Next Generation Guided-Missile Destroyer (DDG(X)) Land Based Test Site	PEO艦船とNSWCフィラデルフィアは、次世代誘導ミサイル駆逐艦(DDG(X))の陸上テストサイトの主要マイルストーンを達成した	Dvids UNITED STATES 2023/3/23	 Naval Surface Warfare Center のフィラデルフィア・ディビジョンで、2023.3.21 に次世代DDG(X)用陸上テストサイト開設のテープカットセレモニーが行われた。世界をリードする艦船を建造しつづけるためには、装備品開発、要求仕様の作成、リスク回避など、陸上テストサイトの重要性がよくわかる。また、就役後の乗員訓練施設や維持整備面での活用も重要なようである。	清水隆
2023 -62	2023/3/1	Type 055 Renhai-class Cruiser: China's Premier Surface Combatant	タイプ055レンハイ級巡洋艦：中国最高峰の水上戦闘艦	Proceedings 2023/3/1	 中国海軍のレンハイ級巡洋艦の一口解説です。個々の装備品の性能はともかくとして、全体の配置・シルエットは極めて洗練されていると思います。中国の設計官の能力は侮れないです。プロシーディングス誌 3月号から。	岩崎洋一
2023 -63	2023/3/3	Power-Hungry Navy Ships Require New Engine Tech	電力を大量に消費する海軍の船には新しいエンジン技術が必要です	National Defense 2023/3/3	 米国を代表するエンジンメーカー責任者へのインタビューを通じて、米海軍がIPES に向かうことについての解説した記事です。エンジンメーカーとしては、ディーゼルエンジンのFairbanks Morse Defense 社とガスタービンのGE マリーナ社です。電気推進を採用する目的は、電力に対する艦船の将来余裕つまり拡張性の確保と、燃料費低減にあるようです。所要電力を積み上げて発電機容量を決定する時代は終わっているようです。また、コンステレーション級のDE発電機は近い将来、Fairbanks Morse Defense 社の米国製に代わるように思われます。	清水隆
2023 -64	2023/3/27	Singapore's DSTA Taps Saab For MRCV Design	シンガポールのDSTA、MRCVの設計をサーブに依頼	Naval News 2023/3/27	 シンガポールが、UAV・UUV母艦としても機能する多用途戦闘艦の設計をサーブに依頼したという記事です。ミサイル・コルベットの代替艦で、排水量10,000トンのコルベットとはどういうことなのか。設計はサーブが実施し、詳細設計及び建造はシンガポール国内で実施するという形態は我が国も参考にすべきではないでしょうか。今後も注目します。	川原梅三郎
2023 -65	2023/3/27	Turkiye's First Shipborne Combat Drone TB-3 Bayraktar Breaks Cover	トルコ最初の艦載型戦闘ドローンTB-3がベールを脱ぐ	Naval News 2023/3/27	 トルコの戦闘ドローンBayraktar TB-2は今次ウクライナ戦争であまりに有名になりましたが、同社では艦載型のTB-3を開発しているようです。折畳翼とし、搭載重量、速力もTB-2よりも向上させています。トルコ海軍はTB-3を強襲揚陸艦TCG Anadoluに搭載して運用する計画のようです。おそらくTB-2同様に輸出も目論んでいることでしょう。	佐々木司
2023 -66	2023/2/1	Eyewitness to the Battle of the Atlantic	バトル・オブ・アトランティックの目撃者	Naval History Magazine 2023/2/1	 大西洋の戦いに米国沿岸警備隊の少佐として従軍した画家フィッシャーのビビッドな作品と戦いの物語です。沿岸警備隊がUボートに砲撃を加え、爆雷を投下して、立派に軍事活動をしています。	岩崎洋一
2023 -67	2023/3/31	Marine Corps rejects Pentagon's pitch for new amphibious ship designs	ペンタゴンの新型揚陸艦に関する設計を海兵隊が拒否	Defense News 2023/3/31	 米海軍LPD-17級揚陸艦はLPD-28から廉価版のFlight IIに変更しました。しかしその建造費が相変わらず高止まりしているため、ペンタゴンでは更なる価格低減を提案しましたが、これに海兵隊が猛反発しています。海兵隊としては艦を小型化すると十分な装備が搭載できず、作戦遂行に支障を来すというものです。予算削減ありきなのか兵力整備が優先なのか・・・	佐々木司
2023 -68	2023/4/5	ABB to power two new multi-purpose patrol vessels for Finnish Border Guard	ABBがフィンランド国境警備隊向けの2隻の新しい多目的巡視船に電力を供給する	Naval News 2023/4/5	 フィンランド国境警備船には、北欧ならではの要求、入組んだ海岸線の荒海での運用から操船性の良さや北極圏に近く環境へのやさしさが求められる。これに対し、ABBのDC電源装置とアジポッド電気推進が選定された。ドイツ海軍も次期艦船にはDCグリッドを採用するとされており、この傾向はいよいよ発展すると思われる。	清水隆
2023 -69	2023/4/1	Exploiting China's Maritime Vulnerability	中国の海の弱みにつけこむ	Proceedings 2023/4/1	 対中国 戦略 でまったく新しい発想 です。軍対軍の直接対決でなく、正にアシンメトリーな戦いです。プロシーディングス誌4月号から。	岩崎洋一

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -70	2023/4/10	HHI Launches First Chungnam-Class FFX Batch III Frigate For ROK Navy	HHIが忠南級FFX Batch III 1番艦を進水	Naval News 2023/4/10	 韓国海軍向け新型フリゲートが進水しました。「先進型マスト」と称する頭でっかちな構造物があります。多機能レーダーアレイを極力高く装備するためですが、数メートル上方に装備してもレーダー水平線はあまり伸びません。復原性への影響の方が懸念されます。記事に韓国では不吉な数字とされる「4」を艦番号に用いないというのには驚きました。確かにそのようです。	佐々木司
2023 -71	2023/4/4	Dutch Navy's ASW Frigates To Enter Service In 2029	オランダのASWフリゲートが2029年に就役へ	Naval News 2023/4/4	 オランダがベルギーと共同で対潜フリゲートの更新事業を進めています。「対潜」を主要任務としながらフリゲートの保有隻数が少ない両国海軍の事情を反映してか、対空、対水上戦能力も日本の汎用護衛艦並みに保有する予定です。それにしても2隻で19億ユーロ(約2340億円)とは、「あさひ」型護衛艦並みの寸法の割には随分と高価なフリゲートです。	佐々木司
2023 -72	2023/4/12	US Navy aims to field manned-unmanned fleet within 10 years	米海軍、10年以内に有人-無人艦隊の実戦配備を目指す	Defense News 2023/4/12	 米海軍の水上・水中各種無人ビークルの開発状況がよくわかる記事です。今後10年以内に有人・無人プラットフォームによる艦隊を編成し、将来は無人機がほぼすべての活動の中心になるとまで言っています。兵士の安全性、運用の柔軟性を考えれば、将来の戦闘において無人機が主力となることは当然予想でき、軍事技術の主眼もそちらに向いていくことでしょう。	佐々木司
2023 -73	2023/4/1	'Somebody's Got to Say Something About the Problem'	「誰かがこの問題について何か言わなければならない」	Proceedings 2023/4/1	 原潜「スレッシャー」沈没事件からちょうど60年目です。プロシーディングス誌4月号から。	岩崎洋一
2023 -74	2023/4/11	No Timeline Yet to Add Tomahawk, SM-6 to Constellation Frigates, Says Program Manager	トマホークとSM-6をコンステレーション級フリゲートに追加するスケジュールはまだない、とプログラム・マネージャーが語る	USNI News 2023/4/11	 米海軍の新型フリゲートには、SM-2とESSMの搭載が予定されていますが、米議会からトマホークとSM-6も積めるようにせよと2023歳出権限法の中で指示されているようです。技術的には将来のUSVへの搭載を見越した開発リスク低減が目的とのことです。(無人水上艦にトマホークとSM-6を積んで攻撃させる!)米海軍のPEOは、2番艦以降で検討するが、建造中の1番艦にはまったく考えていないと言っています。VLS MK41はハード的には可能なはずですが、武器管制システムなど、いろいろ難しいのでしょうか?	岩崎洋一
2023 -75	2023/4/17	UPDATED: Feds Investigating Former Sailor Behind Pro-Russian 'Donbass Devushka' Accounts	最新情報: 連邦捜査局が親ロシア派「ドンバス・デブーシュカ」アカウントの元水兵を捜査中	USNI News 2023/4/17	 空軍州兵ジャック・テシェイラ容疑者が起こした機密漏洩事件で、海軍水兵も拡散に関わったという記事。	岩崎洋一
2023 -76	2023/3/30	Royal Navy autonomous mine hunting at the sharp end	最も難しい場面における英海軍の自律型機雷掃討	Navy Lookout 2023/3/30	 英海軍が進める、有人機雷掃討艇から自律型システムへの移行計画に関する記事です。英海軍は2033年までに、対機雷戦部隊を無人の自律型システムに移行させる計画ですが、対機雷戦を軽視している訳ではないようです。海軍基地周辺や重要航路などでの常続的な機雷監視の重要性を認識し、むしろ対機雷戦能力を一層重視しているようです。また、条件が整えば目を覚ます機雷の敷設は、密かに進行している恐れがあることに強い警戒感を持っています。英海軍の自律型システムは、現時点、機雷掃海・掃討双方の機能の確立を追求しています。今後、多少の揺り戻しがあるかもしれませんが、無人化の方向性にブレはないようです。継続して動向に注意していきたいと思います。	本山泰之
2023 -77	2023/4/1	What Killed the Thresher?	何が「スレッシャー」を殺したか?	Naval History Magazine 2023/4/1	 原潜「スレッシャー」の悲劇を生々しく描いたノーマン・ポルマーの読み物。海軍歴史マガジン4月号から。本文は14ページまでで、後は読者コメントです。プロシーディングス誌のジム・ブライアント大佐の関連記事も他薦・自薦されています。	岩崎洋一

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -78	2023/4/17	Type 31 frigate benefits from an international shipbuilding programme	Type 31フリゲート艦は国際造船プログラムの恩恵を受けています	Navy Lookout 2023/4/17	  <p>世界的なインフレが進む中、英海軍のType 31建造も、様々な課題に直面しているようです。ただし、一部のブロックのポーランドでの建造という新機軸は、非常に興味深いです。これが今を取り巻く情勢に、どう作用してくるか、また如何により良く作用させるのか、大きな関心事です。両国は1,600km離れていますが、近隣国に装備移転を構想する場合の、格好の勉強材料になりそうです。また、本艦は、サプライチェーンが国内外に大変複雑化し、その調整・制御が全体工程に直結すると思われませんが、工程厳守への英国の堅い決意が見受けられます。本Type 31ファミリーの動向について、継続して注意していきたいと思えます。</p>	本山泰之